

## 【D T S】JISA 主催のエンジニア向け AI 勉強会に登壇、最新技術を紹介

### 生成 AI の連携技術「MCP (Model Context Protocol)」のデモ披露

株式会社 D T S（東京都中央区、代表取締役社長 北村 友朗）は、一般社団法人情報サービス産業協会（JISA）が 2025 年 7 月 28 日にオンライン開催した会員企業限定勉強会「AI エージェント時代の到来 第 3 弾」に D T S のイノベーション推進部・G e n A I ビジネス推進室 涌田 裕規が他の 4 社の IT 企業と共に登壇しました。

本勉強会では、最新技術である MCP (Model Context Protocol) の活用事例や、生成 AI が自律的に開発を行う“開発エージェント”の最新デモ (Claude Artifacts・Cursor 等)、バイブコーディングによる新たな開発スタイルについて紹介しました。当日は 107 社・約 600 名のエンジニアが参加し、満足度 95%以上と高い評価をいただきました。

D T S は今後も生成 AI 技術の活用に注力し、お客様の価値創出に貢献してまいります。



写真右から SCSK サービスウェア株式会社 小澤 仁護 様、株式会社 BeeS 古宮 浩行 様（コーディネーター）、株式会社 TOKAI コミュニケーションズ 山田 周策 様、株式会社アイネス 白 済峰 様、株式会社 D T S 涌田 裕規

## ■「JISA 版 NTC プロジェクト」でトップクラスのデジタル人材育成

一般社団法人情報サービス産業協会（JISA）人材委員会では、会員企業に在籍する IT エンジニアを対象に、トップクラスのデジタル人材の育成を目的とした「JISA 版 NTC プロジェクト」を令和 4 年度より企画、運営しています。

本プロジェクトの卒業生を中心に、社会的関心の高い生成 AI 技術をテーマとしたセミナー（勉強会）を開催しており、これまでに JISA 会員企業のエンジニア約 1,300 名が参加しています。

<NTC プロジェクトの詳細について>

<https://www.jisa.or.jp/tabid/78/Default.aspx?itemid=3904>

## ■第 3 回のテーマは、「生成 AI が実行主体となる時代」

このたび、第 3 回目となるセミナーでは、「生成 AI が実行主体となる時代」をテーマに、最新技術である MCP（Model Context Protocol）の活用事例や、生成 AI が自律的に開発を行う“開発エージェント”の最新デモ（Claude Artifacts・Cursor 等）、さらにバイブコーディングによる新たな開発スタイルを紹介しました。当日は 107 社、約 600 名が参加し、実践的なデモに対し高い評価をいただきました。

<イベントの詳細について>

<https://www.jisa.or.jp/event/tabid/152/pdid/3194/Default.aspx>

## ■DTS の涌田 裕規による MCP（Model Context Protocol）のデモ披露

本セミナーでは、DTS のイノベーション推進部・Gen AI ビジネス推進室 涌田 裕規が登場し、MCP の概要説明および自作 MCP のデモンストレーションを行いました。



イノベーション推進部 GenAI ビジネス推進室  
涌田 裕規

東京都出身。東京都在住。  
2016年、同社に入社。金融（保険代理店）向けのシステム開発部門に所属し、アプリケーション基盤担当として、フルスクラッチでのシステム開発を経験。その後、企画部門に異動し、アーキテクトとして提案・技術支援を行い、またメタバースを活用した新規ビジネスの企画や、システム開発における生成AIの適用に関する研究にも従事。  
本年度からは新設された生成AIの専門部署に異動し、生成AIのオフライン検討などに取り組み中。

趣味はテニス、アニメ鑑賞やガジェット集め。



### MCP(Model Context Protocol)の背景

生成AI周りの技術課題を解消するべく出た新しい技術

| 背景・課題                                                                                                   | MCPが目指したこと                                     |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 1 生成AIの急速な進化と限界<br>LLMは強力な推論を持つが「今この問題の文脈」を理解するのが苦手                                                     | 標準化されたプロトコルによって煩雑さの解消                          |
| 2 RAGやMemoryの登場と限界<br>・外部データベースから情報を検索してモデルに渡す手法<br>・過去の会話履歴やユーザ情報を保持する手法<br>システム毎に実装がバラバラで他サービスと連携しづらい | 複数の外部リソースとの組み合わせでの活用<br>今必要な情報を外部にリクエストして取得できる |

Copyright© DTS Corporation

## ■DTS のGen AI ビジネス推進室について

今年度よりDTSでは「Gen AI ビジネス推進室」を新設し、事業部門と連携しお客様に対して生成 AI の活用提案、社内向けには生成 AI の利活用支援を推進しております。

DTSは、2030 年を目標に生成 AI 関連事業で売上高 100 億円の達成を目指しております。今後も生成 AI 技術の活用に注力し、お客様の価値創出に貢献してまいります。

※Claude は Anthropic の商標または登録商標です。

※Cursor は Anysphere の商標または登録商標です。

<株式会社D T Sの概要>

D T Sは、総合力を備えたトータルシステムインテグレーター (Total Sler) です。主に金融、情報通信、製造、公共、建築分野向けに、コンサルティングからシステム設計・開発、基盤構築・運用までをワンストップで提供します。

また、D T Sグループは、システムに関わるさまざまな専門性を活かした付加価値の高いサービスを提供します。

<https://www.dts.co.jp/>



本社所在地：〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-23-1 エンパイヤビル

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社D T S イノベーション推進部 担当：林・涌田

E-mail：ai-biz@dts.co.jp

<報道機関からのお問い合わせ先>

株式会社D T S 広報部 担当：細田、蛭田

TEL：03-6914-5463 E-mail：press@dts.co.jp